

東三河 狭山ニュース

2015.1.31 No.5

「狭山事件の再審を求める東三河の会」

代表 山崎和男

090-5614-3244



ようこそ



石川一雄さん、早智子さん！

キムソンウン

金聖雄監督！谷川賢作さん！



感謝

いまこそ狭山事件の再審を！

私たちは多かれ少なかれだれもが狭山事件の当事者だと思う。

代表 山崎和男

「狭山事件の再審を！豊橋上映会」にお越しの皆さん、大変ありがとうございます。

私がなぜ狭山事件に取り組んでいるか、簡単にお話したいと思います。初めて狭山事件のことを知ったのは今から44年前、学生の頃でした。知ってからしばらくして、狭山現地調査に行きました。あちこち回りましたが、ほとんど覚えていません。ただ一つ、そのころ石川さんは東京拘置所にいましたが、ご両親が「一雄は犯行時間と言われる時間に家にいました。あの子は絶対にやっています。どうか息子を助けてください」と、万年筆が見つかった鴨居の前で言われたことはよく覚えています。大学に帰って、以前堺市で見たことがある鴨居の模型を作り、石川さんが無実であることを学生たちに訴えました。私の学生時代は狭山の活動を中心に回っていました。就職してからは、活動から離れていました。もちろん、頭の片隅にはありました。

数年前、狭山の映画がつくれること、カンパの募集をしていることを知りました。定年も近づき、学生時代に取り組んでいた狭山に、もう一度取り組みたいという気持ちが湧きあがってきました。学生時代から40年たっても石川さんはまだ無罪になっておらず、「殺人犯」のままでした。金監督がつくられたこの映画がもう一度狭山に取り組むきっかけを作ってくれました。

狭山事件の当事者はもちろん石川さんです。私が石川さんに代わるわけではありません。しかし、警察や検察や裁判所は「石川さんは無実」ということを十分知っていながら「殺人犯」にしていると思います。無実の人が50年かかってもまだ無罪にならない社会はとうてい民主国家とは言えません。あまりにも理不尽です。私たちは、石川さんと同じ時代に生きています。そういう意味で私を含めて誰にとっても、多かれ少なかれ狭山の当事者であると思います。狭山では一人の人権を取り戻すことを「我がことのように感じて」多くの人に取り組んでいます。「一人はみんなのために。みんなは一人のために」という社会的な連帯感にもとづく取り組みです。「私にとっての狭山」は、一人一人違っていいと思います。それでも、一人の人権を大切にするために人々が手を取り合うことは、多くの人の人権を大切にすることにつながっていると思います。みんなが大切にされる社会でありたい、そう願ってこれからも狭山に係わっていきます。石川さんが無罪になるまでご支援お願いします。



再審を求める署名への協力を訴える山崎さん(右)と豊橋駅前

狭山事件再審求め
31日に映画上映会
豊橋、来場呼び掛け
埼玉県狭山市で女子
高生が殺害された「狭
山事件」で、冤罪を訴
える石川一雄さんを支
援する市民団体「狭山
事件の再審を求める東
三河の会」は二十四
日、豊橋駅前で署名を
集めるとともに、三十
一日に豊橋市民文化会
館である石川さんに密
着したドキュメンタリ
ー映画の上映への来場
呼び掛けした。

中日新聞 1月25日

ホームページ

「狭山東三河の会」

ブログ

「狭山おたより日誌」

私たちの活動の様子を

ご覧ください